

ラジオ波による 深部温熱を操る。

深部熱・温熱効果

疼痛の改善

筋痙縮の改善

関節性拘縮の改善



ラジオ波温熱セミナー 金沢

テーマ 下肢関節へのラジオ波を使用したアプローチ
動かして治療する! ラジオ波を使用した時短治療!

日時 2019年2月16日(日)
10:00~13:00(受付9:30~)

場所 金沢勤労者プラザ 204研修室
石川県金沢市北安江3-2-20

参加費 3,000円 **定員** 15名

※1施設2名様まで

お申込

弊社「酒井医療」のホームページよりお申込みください。トップページの「セミナーイベント」から「セミナー一覧」ページへアクセスすることができます。該当のセミナーからお申込フォームにご入力ください。

セミナー概要

臨床の場で必ず経験する下肢の可動域制限。各関節でポイントとなる軟部組織の解剖・臨床症状を解説し、治療のゴールを迎えるためのアプローチ方法をお伝えします。

「ボクたちが治療で治すのではなく、患者様の身体が治す!」という考えに基づいて、実技では、自動運動を用いたラジオ波のかけ方を行い、受け身になりがちな治療を変えるきっかけづくりと、先生方の治療の引き出しを増やすセミナーになれば幸いです。

講師紹介



駒田智史 (satoshi komada)

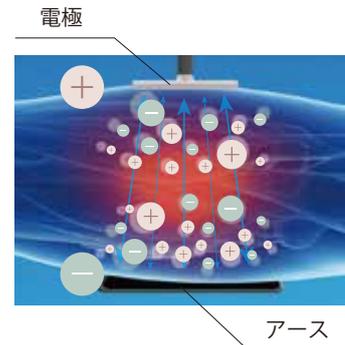
- ・ のぞみ整骨院 (愛知県常滑市) 院長
- ・ 柔道整復師

病院勤務、老人施設勤務を経て、のぞみ整骨院を開業。最近では少なくなった骨の接げる柔道整復師。理学療法の考えを取り入れ、「エビデンスに基づいた治療を行う」をモットーに日々施術している。

「抵抗の高い場所に温熱が集まる」特性

ラジオ波温熱の原理

電極とアースで体をはさみ、+極と-極を1秒あたり数十万回変化させて体内の分子を振動させることで、分子同士の摩擦熱（ジュール熱）を発生させることで体を温めます。体外から熱を与えるのではなく、体内で熱を発生させる深部加温が可能です。そして従来の温熱機器と大きく異なるのは「抵抗の高い場所に温熱が集まる」というラジオ波の特性にあります。



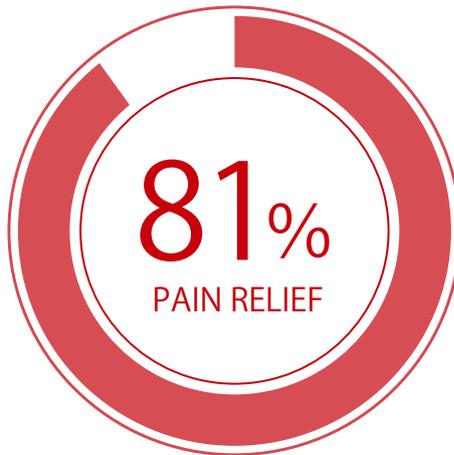
高い疼痛緩和効果と 温熱持続性の実証

15分の施術で、温熱の届く深さは5~10cm、体内温度を3~5℃高めます。施術後も体内温度はすぐに下がることがなく、3~4時間維持される特長を持っています。腰痛を含めた様々な疾患に苦しんでいる患者※の81%に対して痛みの軽減に高い効果が認められています。

※ 引用文献：腰痛に対する静電容量の電気転送温熱療法の臨床効果

Clinical Effect of Capacitive Electric Transfer Hyperthermia Therapy for Lumbago

Kuniyasu Takahashi1), Tetsuo Suyama1), Makiko Onodera1), Shigeru Hirabayashi2), Nobuyuki Tsuzuki2), Li Zhong-Shi2) 1) Department of Rehabilitation, Saitama Medical Center, Saitama Medical School, Kamoda-Tsujidomachi 1981, Kawagoe City, Saitama 350-8550, Japan 2) Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical Center, Saitama Medical School J.Phys.Ther.Sci.11:45-51,1999 © The Society of Physical Therapy Science



セミナー会場



お問い合わせ

酒井医療株式会社：03-5227-5775
(当日のご連絡先：080-5940-5638)